

# 富裕層のためのファミリーオフィス入門

～真の豊かさ、幸せを手に入れるために

日本の富裕層の間で最近話題になり始めている「ファミリーオフィス」。

資産家はもちろん金融業界からも、新しいサービスの形態として注目を集めている。

しかし、ファミリーオフィスの本来の意味、真の役割を理解している日本人はまだ少ないと、

スイスで活躍するビジネスコンサルタント、鈴木桂氏は語る。

日本に「本物のファミリーオフィス」を紹介するために、

待望の著書を上梓することになった鈴木桂氏が提案する、真の豊かさとは――。

取材・文／SEVEN HILLS Premium 写真／小松原英介 ヘアメイク／河合なおみ



## 鈴木 桂

Katsura Suzuki

経営管理學博士、Katsura Suzuki Consulting (KSC) 代表。

東洋英和女学院英文科卒。MBA (European University, Lausanne)、Doctor of Business and administration - 経営管理學博士 (University of South Australia, Adelaide)、スイス連邦政府公認の国内及び国際人材派遣業のライセンス取得。

スイスの大手国際会計事務所にて日系企業担当部門のデスクを立ち上げる (1989)。Katsura Suzuki Consulting 設立 (1997)。スイスの大手国際会計事務所にて日系企業担当部門のスイス代表を務める (1997～2010)。Care Team Japan 創設 (2001)。Forum for Family Office 創設 (2010)。ファミリーオフィスサービスを開始するにあたり、スイス連邦政府公認のマネーロンダリング規制 (AML: Anti-Money-Laundering Regulation) に遵法している自主規制組織 (SRO: Self Regulatory Organization) を取得中。

英語、ドイツ語に堪能。家族は夫と子供二人。

KATSURA SUZUKI CONSULTING

URL: <http://www.ksc-global.com>

Email: [info@ksc-global.com](mailto:info@ksc-global.com)

## 「日本人のためのお金の授業」という本を出版することになったきっかけは？

今年でヨーロッパと日本での暮らしの年月がちょうど半々になります。節目として、これまでお世話になった方に恩返しをしたり、自分の経験をいろいろな方にお伝えしたいと思っていました。そんなときにご縁があって出版のお話をいただいたのです。論文やビジネスレポートは今までたくさん書いてみたくありません。実は書いてみたいテーマは他にもたくさんあったのですが、まずは、ファミリーオフィスを正しく紹介する本にしようということになりました。

ファミリーオフィスはスイスではごく当たり前の考え方ですが、日本ではまだよく知られていません。よく「SOHOですか」と聞かれたり、航空会社のファミリー向けサービスと勘違いされたりするんですよ(笑)。今回上梓する本では、様々な観点からファミリーオフィスを分析して紹介していますが、初めてこの言葉を聞く一般の方が読んでも、

金融の専門家の方が読んでも理解できるような本になっています。

## ―そもそもファミリーオフィスとは？

ファミリーに関わる問題を解決するセンターのような位置付けです。世界の富裕ファミリーはたいてい事業を営んでいます。それが2代目、3代目と続いていくと、ファミリーは100人くらいの一族になるわけです。そうすると、ファミリーの哲学や子供たちの教育方針、その他いろいろなことを継承していくことが必要になり、実際に欧米ではそうした文化があります。

もともとは、1980年代にアメリカで莫大な財産を得た人が、会計士、弁護士、コンサルタント、金融アドバイザーなどの専門家から成る財産管理のチームを作ったことが、ファミリーオフィスの発祥です。

## ―プライベートバンクとの違いは？

よくプライベートバンクとの関係を聞かれるのですが、そもそもプライベートバンクとは、自分たちのファミリーがお金をたくさん持っているから銀行を始めた、というのが起源です。最初は自分たちのファミリーだけでスタートしたものが、次第に仲の良いファミリーがいくつか集まって、パートナーシップを組むようになったのです。私が最初に「鈴木銀行」を作って、仲の良い山田さんファミリーをパートナーにして「鈴木山

田銀行」になったようなものです。そしてその銀行は、一般のお客様を相手にするのではなく、自分たちファミリーのことだけを面倒見るのです。ですから、アメリカで生まれたファミリーオフィス、つまりファミリーのための財産管理チームと、本来の意味でのプライベートバンクは、同じ発想から来ているのです。

今やプライベートバンクにも様々な種類ができ、メガバンクやユニバーサルバンクによるプライベートバンクサービスと、本来の意味でのプライベートバンクの違いがわからなくなってきました。ですから、スイスでも本来の意味でのプライベートバンクを指すときに、ファミリーオフィスという言葉を使うようになったのです。

ただ、ファミリーオフィスがプライベートバンクと完全にイコールかというと、そうではありません。ファミリーオフィスの役割は、資産管理だけではなく、リスク・マネジメントやヘルスケアなど、家族に関するあらゆる問題に対するサービスの提供ですから。

## ―ファミリーオフィスとは、多岐にわたってファミリーをサポートする組織ということでしょうか。

必ずしも組織ではありません。誰かひとりがそういう役目をしていたらそれもファミリーオフィスですし、法律事務所の中でそうしたサービスを行っている場合もあります。多いのはプライベートバンクがファミリーオフィ

スの業務を行なっているケースです。それもあり、日本では、ファミリーオフィス=金融サービスだと勘違いされがちなのです。

## ―日本にファミリーオフィスは定着するのでしょうか。

プライベートバンクという言葉、考えが日本に入って来たのは1997年のことで、定着するまでに10年かかりました。同じようにファミリーオフィスが理解され定着するには10年は必要ではないかと見ています。その第一歩になるように本を書いたわけですが。

それに、アメリカ型金融システムを取り入れた日本には様々な法規制があるため、スイスでのファミリーオフィスと全く同じ形で展開することはできません。しかし、本の中で詳しく述べていますが、日本に居ながらファミリーオフィスのサービスを受けることは可能で、様々な選択肢、可能性があります。一番大切なのは、形態ではなくて、ファミリーオフィスという概念、考え方です。

## ―ファミリーオフィスを紹介することで、日本の読者に何を伝えたいのですか？

まず、自分たちを中心に置いて考えることで、自分たちにどんなサービスが必要かを自分たちで判断してほしい。そうすることによって、自分主体でより幸せに生きていけることに繋がる、ということを伝えたいです。



また、プライベートバンクやファミリーオフィスをテーマにすると、どうしても資産運用テクニックなどのハウツー話に陥りがちになります。でもそうではなくて、得た財産を使って何をすべきなのか、どうしたらより豊かになれるのか、ということを知りたいのです。

たとえば、ある程度の資産を作ってプライベートバンクに預ければ、8～10%の利子を得て、それだけで生きていけます。生活のために働く必要がなく、自由な時間を得ることができるのです。そして、大切なのはその自由な時間で何をすべきか、ということです。私はやはり社会貢献をすべきだと思っています。私が伝えたいのは、利子で生きていけるテクニックではなく、利子で生きていけるようになった後の生き方です。

—鈴木さんはFFO\*など、様々な社会貢献活動に取り組んでいますね。

社会貢献をしたいという意識は、今までの経験から自然に生まれました。これまで多くの富裕層と出会ってきましたが、金銭面・物質面の豊かさだけでは人はけして幸せにならない、ということを実感しています。

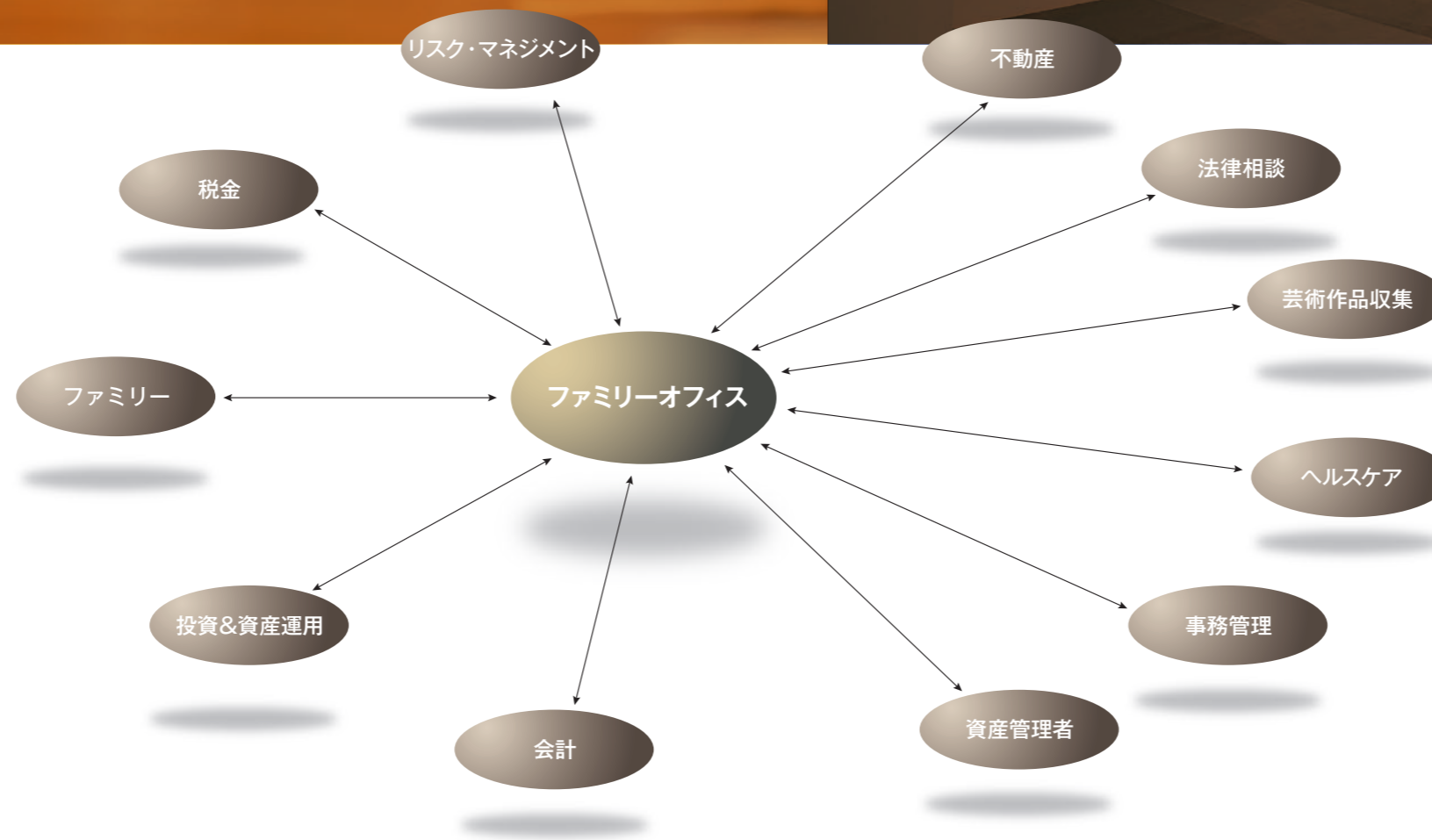
スイスも日本も世界でトップレベルの富裕国ですが、うつ病の人や自殺者の数がとても多いという共通点があります。豊かで恵まれているのに幸せでない人が多くいるということに、私はいつも疑問を持っていました。エリートで何でも持っている人が、心を病んでしまったり、スキャンダルに巻き込まれたり、

足を引っ張られて失脚したり……。そういう場面を何度も見てきました。そして「物質的なものだけで達成できる幸せなどない」ということに気付いたのです。では、何が幸せなのだろうと、ずっと考えていました。

大きな転機になったのは、アフリカのスラムに行ったときの体験です。寄付のために靴や洋服をたくさん持っていったのですが、最初私は「自分がしてあげる」という感覚でいました。しかし、実際に現地に行ってみると、自分がしてあげたことの何百倍ものものをもらったのです。

あの日彼らからももらったものは、嬉しいとか感謝とか、そういうものを遥かに超えた、何物にも代えがたい大きな感動でした。お金ではけして買うことができないものです。自分が与えることによって、それ以上のものを与えられる。これほど素晴らしいことはありません。スイス人も日本人もこういう気持ちを持てば、自ら命を絶つ人なんていなくなるのではと思いました。

私はこういう気持ちを持ち続けたいし、また、周りにも伝えていきたいと思っています。



(資料: University of Zurich, Swiss Banking Institute, Prof. Dr. T. Cocca, Speech in 2008, Katsura Suzuki 「グローバル時代における日本型ファミリーオフィスの提案」)

『日本人のためのお金の授業』目次より(抜粋)

- 第1章 ファミリーオフィスとは  
ファミリーオフィスの歴史  
ファミリーオフィスを利用する意義
- 第2章 ファミリーオフィス分析  
スイスのお金持ちの行動  
スイスの超富裕層ファミリーオフィス一覧
- 第3章 世界のファミリーオフィス実例紹介  
サービスの利用者側の声  
(カナダ出身ユダヤ人金融工学の天才)  
サービスの提供者側の声  
(スイスの老舗プライベートバンカー)
- 第4章 日本でファミリーオフィスを定着させるために  
日本型ファミリーオフィスの提案  
マイファミリーオフィスの提案
- 第5章 Q&A

『日本人のためのお金の授業』鈴木桂 著 (総合法令出版)  
2011年1月下旬発売予定  
※タイトル、発売日、目次は変更になる場合があります

—今後の活動を教えてください。

ここ10年は、スイスと日本で思い切り好きなことをしようと思っています。いろいろな本を書きたいですし、日本の会社がグローバルに活動できるようお手伝いもしたいです。また、日本に限らず、人が幸せになれるような活動をしている会社のお手伝いもしたいですね。

それから、いろいろな人のアドバイザーになれたらと思っています。私は日本人で

ありながら海外生活が長いので、日本の良い面悪い面を知っています。また、これまでの経験を活かして、企業やファミリー、若い人たちのお役に立ちたいですね。

最終的にはやはり、「幸せ」を増やして

いくような仕事をしたいです。もちろん私ひとりの力は及びませんが、私が出会った100人に私の気持ちが伝わり、その100人からさらに伝えてもらえば、どんどん広がっていきますから。今回の本が、そのスタートになればと願っています。

鈴木桂 出版記念パーティーのご案内

【日時】 2011年1月28日(金) 18:30～(18:00受付開始)  
【場所】 ホテル インターコンチネンタル 東京ベイ (03-5404-2222)  
【会費】 10,000円(お一人様) ※会費は当日受付にてお支払いいただきますようお願いいたします  
【お問い合わせ・連絡先】 Katsura Suzuki Consulting ジャパンオフィス 担当:池田 info@ksc-global.com

Present 読者プレゼント

『日本人のためのお金の授業』を3名様にプレゼント。詳しい応募方法は129ページをご覧ください。

\*FFO: Forum for Family Office. 鈴木桂氏と2名のパートナーが設立した社会貢献活動を目的とした組織 <http://www.ffoglobal.com>